

シンポジウム 3-5

コロナと薬局とトラベルクリニック in Canada

佐藤 厚

London Drugs

「サバイバルトラベルクリニック」

2020年3月、新型コロナウイルスの世界的流行拡大に伴い、カナダの薬局では薬の買い溜めをする患者が殺到し、1日の取扱処方せん数が劇的に増加したのに対し、当薬局のトラベルクリニックにおける新規コンサルテーション数はゼロになった。渡航の際の疾患を予防するための相談業務であるから、渡航が制限されれば顧客がいなくなるのも当然であるが、薬局内トラベルクリニックの持続性という問題が浮き彫りとなった。歴史上稀にみるイベントだったからと片付けるのではなく、薬剤師によるトラベルクリニックの生き残り方について検討する。

「薬剤師の優先順位」

新型コロナウイルス拡散防止のために、ジャスティン・トルドー首相が毎日のように「ステイホーム」と国民に呼びかけていた頃、カナダの薬剤師はエッセンシャルサービスワーカーとして働き続け、1日たりとも休業することはなかった。しがしながら、2021年の年明けに発表された新型コロナウイルスワクチンの接種計画においては、薬局薬剤師の優先順位がトップにくることはなく、複雑な思いを抱いた薬剤師は多い。そこで、カナダでの薬剤師の社会的な立ち位置を考える。

「欠品対処法」

カナダでは、新型コロナウイルスワクチンの承認に伴い、薬剤師が接種キャンペーンにおいて大きな役割を果たすであろうことが予想されたが、実際に薬局での接種が始まるまでには予想以上の時間を要した。ブリティッシュコロンビア州の薬局では、2021年4月にアストラゼネカ社（AZ社）のワクチン接種が始まったが、州政府からの供給数は限定されたものであり、接種開始3週間後にはAZ社のワクチンの供給が途絶えた。一方、この時点のオンライン予約システムの順番待ちリストには1000を超える登録があった。ただ、カナダでは薬剤やワクチンの欠品は珍しいことではなく、過去の経験からある程度の解決策がある。この事例と対処法を紹介する。

「薬剤師的国際貢献」

本来薬局とは、そのコミュニティにおいてヘルスケアサービスを提供する性質のものであるが、これからの渡航の際には新型コロナウイルスのワクチン接種が必須となることを考えれば、薬局薬剤師はトラベルクリニック業務を通じて、より国際的に感染症予防に貢献することが出来る。感染症の知識とワクチンの重要性に対する人々の意識が高まった中、今後のトラベルクリニックの重点項目について考える。

【略歴】

2008年から、カナダのブリティッシュコロンビア州バンクーバー郊外で薬局薬剤師として勤務。2014年に国際渡航医学医療職認定 (Certificate in Travel Health) を取得し、現在に至るまで薬局内トラベルクリニックを担当。糖尿病指導士 (CDE)。星薬科大学卒業、同大学院修士課程修了。国際渡航医学会、日本渡航医学会会員。